

2024年10月28日

産業別四半期見通し調査結果 (2024年10～12月期見通し)

■長野県産業天気図

◇2024年7～9月期の現況

- 全12業種中、「薄日(順調)」が2業種、「曇り(普通)」が7業種、「小雨(低調)」が3業種となった。

◇2024年10～12月期の見通し

- 見通しは、「薄日(順調)」が2業種、「曇り(普通)」が7業種、「小雨(低調)」が3業種となった。方向感では、「横ばい」が11業種、「やや下降」が1業種となっている。

天気図記号	2024年 4～6月期現況	2024年 7～9月期現況	2024年 10～12月期見通し
 晴れ(好調)	0 業種	0 業種	0 業種
 薄日(順調)	3 業種	2 業種	2 業種
 曇り(普通)	6 業種	7 業種	7 業種
 小雨(低調)	3 業種	3 業種	3 業種
 雨(不調)	0 業種	0 業種	0 業種

■10～12月期見通しのポイント

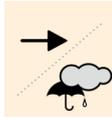
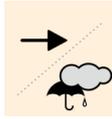
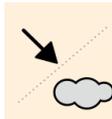
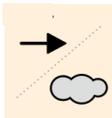
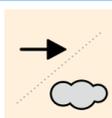
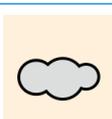
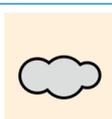
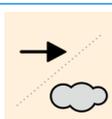
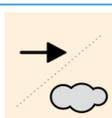
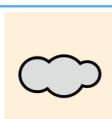
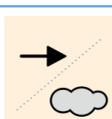
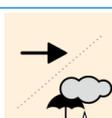
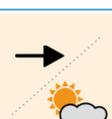
- 製造業、非製造業ともに天気図は変わらない見通し。

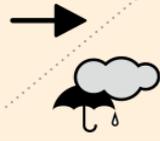
照会先
一般財団法人 長野経済研究所
調査部(担当: 桑井、伊東)
TEL: 026-224-0501

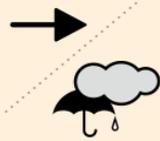


<産業別天気図一覧(12業種)>

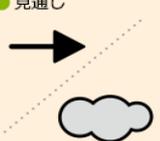
- 調査内容:業界の「現況」、「見通し」は、県内の企業経営者が業界の景気をどうみているかについてアンケート調査とヒアリング調査をした結果を基に、当研究所が判断した。
- 調査期間:2024年9月中旬～10月上旬
- 調査回答企業:県内主要企業12業種の115社

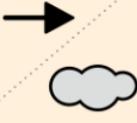
業種	前期 (24年4～6月期)	今期 (24年7～9月期)	来期 (24年10～12月期)
生産用機械			
電子部品・デバイス			
自動車部品			
飲料製造			
食料品製造			
機械器具卸			
大型小売			
自動車販売			
公共工事			
民間工事			
貨物			
観光			

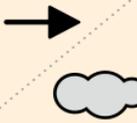
生産用機械	自動車関連・IT関連を中心に受注は低調な見通し
<p>● 現況</p> 	<p>生産用機械の受注のうち自動車向けは、バッテリー式電気自動車(BEV)などの完成車需要の伸び悩みから部品メーカーを中心に設備投資への慎重姿勢が続き低調だった。IT関連では、PC・スマートフォン向けや産業用向けなどの半導体需要の低迷が続き、受注は低水準だった。今後も、自動車関連・IT関連を中心に受注は低調な見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 工作機械の受注は、国内の自動車関連を中心に設備投資への慎重姿勢が続くとみられ低調な見込み。海外は、米国向けが堅調とみられる一方、中国向けや欧州向けは景気減速の影響から低迷する見込み。 ● 半導体製造装置の受注は、産業用やIT関連の半導体需要が回復せず低調な見通し。

電子部品・デバイス	産業用やIT関連を中心に今後も受注は低調に推移するとみられる
<p>● 現況</p> 	<p>電子部品の受注は総じて低調で、生産・出荷は低水準にとどまった。半導体製造装置向けなどの産業用やPC・スマートフォンなどのIT関連向けは、中国や欧州など海外需要の減少から低調だった。また、車載用についても、欧州などでバッテリー式電気自動車(BEV)需要が鈍化したことから弱含んだ。今後も、産業用やIT関連を中心に引き続き受注は低調に推移するとみられ、在庫水準の高止まりが続く見込み。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 産業用やIT関連、エアコンや冷蔵庫などの家電用は、中国景気の低迷を背景として需要の弱さが続くともみられ、低調な見通し。 ● 車載用は、中国景気の低迷やBEV需要の鈍化が続き、弱い動きとなる見込み。

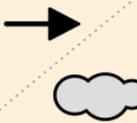
自動車部品	国内向けの受注は堅調も、北米向けが弱含む見通し
<p>● 現況</p> 	<p>台風10号の影響による完成車メーカーの工場の稼働停止や、認証不正問題に伴う一部国内メーカーの生産・出荷停止といった下押し要因はあったものの、受注は新車需要の底堅さから総じて堅調だった。今後は、国内向けは堅調ながら、北米向けが弱含む見込み。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内向けは、スポーツ用多目的車(SUV)を中心に新車需要が底堅く、受注は堅調に推移する見通し。一方、北米向けは、需要に弱さがみられやや弱含む見込み。 ● 中国向けは、現地メーカーとの競争激化を背景に日系完成車メーカーの新車販売が低迷しており、今後も受注は低調な見通し。また、東南アジア向けは、景気の減速から需要に弱さがみられ、低調な見込み。

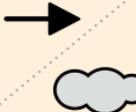
飲料製造	飲料需要は堅調だが、清涼飲料はやや弱含むとみられる
<p>● 現況</p> 	<p>例年に比べ猛暑が続いたことや、観光やビジネスの動きが活発なことから、飲料需要は堅調に推移した。今後は、年末に向けて人の移動や会合が増加することが予想され、需要は堅調とみられる一方、清涼飲料の需要は、価格の上昇からやや弱含む見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 果汁飲料などの清涼飲料は、安心・良質な国産材料を使った製品への消費者ニーズが強いものの、原材料価格上昇分の価格転嫁が進むことにより、需要はやや弱含む見込み。 ● 清酒・ワインなどのアルコール飲料は、宴会シーズンを迎え底堅い需要が続くが、消費者の価格志向が強いつから、瓶や包装資材などの価格上昇分の価格転嫁は難しく、厳しい収益環境が続く見通し。

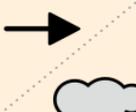
食料品製造	外出機会の増加が続き、業務用を中心に需要は底堅い見通し
<p>● 現況</p> 	<p>家庭用需要は、製品価格の上昇などが消費者の購入意欲の減退につながっていることで弱含んだ一方、観光やビジネスなどで人の動きが増加したことから、飲食店を中心とした業務用は堅調だった。今後は年末に向けて外出機会の増加がみられる中、業務用を中心に需要は底堅い見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 味噌は、製品価格の高止まりなどの影響により、家庭用需要は弱さが続く見込み。 ● スープ・油揚げなどは、外食・宿泊施設向けなどの業務用の需要が堅調に推移する見込み。 ● 加工肉などは、海外産の食肉価格の高騰などを反映して製品価格の上昇が予想され、需要の減少が続く見通し。

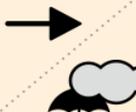
機械器具卸	機械需要は低調も、建設・電設資材需要は堅調を見込む
<p>● 現況</p> 	<p>機械需要は、自動車関連やIT関連で設備投資を控える動きが続き、総じて低調だった。一方、建設・電設資材の需要は商業施設やマンション等の民間工事中心に引き続き堅調だった。今後も設備投資への慎重姿勢から機械需要は低調とみられる一方、建設・電設資材の需要は商業施設の新設工事の下支えもあり堅調な見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 工作機械などの機械需要や制御機器などのFA機器の需要は、自動車関連を中心に設備投資への慎重姿勢が続き低水準が続く見込み。 ● 切削用工具類や金属板などの消耗品受注は、底堅く推移するとみられる。 ● 建設・電設資材は、民間工事中心に安定した工事量が見込まれ、取扱量は堅調な見通し。

大型小売	客数の増加や販売価格の引き上げにより売り上げは順調な見通し
<p>● 現況</p> 	<p>客数の増加や販売価格の引き上げから売り上げは増加した。根強い節約志向の中で衣料品は低調だが、飲料や氷菓等の盛夏商材を中心に食料品等は堅調だった。また、南海トラフ地震臨時情報の発表を受けた水や即席麺などの防災用品の備蓄需要の高まりも売り上げを押し上げた。今後も、底堅い需要の中、販売価格の引き上げ等から売り上げは順調な見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 百貨店は、節約志向が根強い中で衣料品は伸び悩む一方、食料品や靴・バックなどの身の回り品、化粧品は売り上げ増加が見込まれ、底堅く推移する見込み。 ● スーパーは、販売価格の上昇が継続する中で、食料品や日用品などを中心に売り上げは増加する見込み。

自動車販売	納車遅れの緩和などから底堅い動きに
<p>● 現況</p> 	<p>新車販売は、認証不正問題に伴う一部国内メーカーの生産・出荷停止の影響などから持ち直しの動きが鈍化したほか、中古車販売も在庫不足によりやや減速した。一方、輸入車販売は、一部車種のモデルチェンジなどにより持ち直した。今後、新車販売は出荷停止の影響緩和から、また、中古車販売は在庫不足の緩和から持ち直すともみられ、総じて堅調な見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新車販売は、一部国内メーカーの出荷停止の影響緩和等から、緩やかに持ち直す見通し。 ● 中古車販売は、底堅い需要の中で、新車販売の持ち直しに伴う下取り車の増加により在庫が増加するとみられ、緩やかに持ち直す見込み。 ● 輸入車販売は、人気車種のモデルチェンジ効果などから底堅く推移する見込み。

公共工事	道路や公共施設の工事を中心に安定した工事量を見込む
<p>● 現況</p> 	<p>河川の防災・減災工事や学校等の公共施設の改修工事などにより、堅調な工事量となった。今後も、三遠南信自動車道の整備や高速道路の改修に関連する工事に加え、施設の長寿命化修繕工事などが引き続き見込まれ、安定した工事量となる見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国では、三遠南信自動車道の整備に関連した工事や、河川の防災・減災工事などが見込まれ、底堅い工事量となる見込み。 ● 県では、道路や橋梁の補修工事や治水・治山工事の他、公共施設の長寿命化修繕工事を中心に、堅調な工事量となる見通し。 ● 市町村では、学校や庁舎の改修工事などにより、安定した工事量となる見通し。

民間工事	民間企業の建設投資を中心に堅調な工事量となる見通し
<p>● 現況</p> 	<p>民間企業の建設投資は、製造業などで工場等を新增設する動きがみられ、底堅い工事量となった。新築住宅は、マンションの受注は底堅い一方で、建築コストの高止まりにより注文住宅の受注が減少し、総じて着工戸数は低調に推移した。今後も建築コストの高止まりは続く見通しであるが、企業の建設投資を中心に、全体では堅調な工事量を見込む。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 民間企業の建設投資は、工場や倉庫、宿泊施設の新增設工事や、商業施設の新設に関連する工事などにより、堅調な工事量となる見通し。 ● 住宅関連は、リゾート地や市街地における分譲マンションや建売住宅の受注は底堅いものの、建築コストの高止まりによる注文住宅の受注減少から、着工戸数は低調な見通し。

貨物	工業製品は中国向け需要の弱さから低調な荷動きが続くとみられる
<p>● 現況</p> 	<p>工業製品は、中国向けを中心とした海外需要の鈍化を背景に、生産用機械や電子部品関連の荷動きが低調だった。食品・雑貨類は、猛暑により飲料や季節商材の物量は増えたが、商品値上げの影響もあり需要は振るわず、全体の貨物量は伸び悩んだ。今後も、工業製品は低調な動きが続く見通し。業界では運賃引き上げにより売り上げは増加するが、燃料費や人件費等の上昇分を価格転嫁で全て補うには至らず、収益環境は厳しさが続く。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 工業製品は、生産用機械や電子部品を中心に中国など海外需要に弱さが続くともみられ、輸出に関連する荷動きは低調な見通し。 ● 食品や雑貨類は、商品値上げの影響から荷動きは弱含む見込み。

観光	旅客・宿泊とも引き続き順調な利用を見込む
<p>● 現況</p> 	<p>お盆の日並びの良さや三連休の多さから、山岳観光を中心に旅客・宿泊とも利用は順調だった。しかし、旅客では人手不足による需要の取りこぼしがあったほか、宿泊では台風や南海トラフ地震臨時情報による影響で一部にキャンセルが生じた。今後は、旅客・宿泊とも秋の観光需要や年末の宴会需要などで順調な利用が見込まれるため、人員体制の見直しによる需要の取り込みや、価格転嫁による収益の確保を図る。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 旅客は、秋の行楽シーズンやウインタースポーツシーズンを控え、団体利用や高速バスを中心に引き続き順調な利用者数を見込む。 ● 宿泊施設は、観光利用が底堅いほか、年末にかけて宴会需要が増加する見通し。